

「ぶんぶんひろば」における授業の実践
「日本語表現Ⅰ・Ⅱ」
(短期大学 コミュニティ生活学科)

1 はじめに

「日本語表現Ⅰ・Ⅱ」の授業は、大学生として求められる基礎的な国語力を身に付けることを目標に、音声表現の基礎を学ぶ授業である。母国語を正確に美しく話すことは、コミュニケーション技術の中でも中心的な課題である。相手に伝えたいことが伝わるかを試みる実践的な場として、地域の親子が集まる「ぶんぶんひろば」を選び、授業を実施した。

2 準備

利用者親子が参加しやすい時間を選び、10時15分から35分までを設定した。事前に個人情報保護に関する誓約書に学生たちが署名し内容を確認した。

また、ひろばで活動するための心構えとして、行動を子どもの目線に合わせることに、服装などの面では、アクセサリを付けない、髪の毛はまとめる、爪は短く切る等を確認した。学生も名札を付けた。

絵本の選定は、図書館でグループごとに行い、子どもの年齢や季節等を考慮しながら読み比べた結果から、2冊を選んだ。いずれも大型絵本であった。

3 内容

(1) 10月9日のおはなし会の報告

①参加者：保護者8名、子ども9名、学生25名

②絵本：「ぞうくんのさんぽ」

なかのまさたか さく・え 福音館書店

「もこもこもこ」谷川俊太郎作

元永定正絵 文研出版

③手遊びうた：アブラハムの子

(2) 11月6日のおはなし会の報告

①参加者：保護者1名、子ども1名、学生30名

②絵本：「おめんです」いしかわこうじさく・え 偕成社

③手遊びうた：鬼のパンツ

4 学生のコメント

<子どもの様子>

- ・子どもたちが楽しそうだった。
- ・はずかしがっていたけど、絵本は真剣に見ていた。
- ・静かに聞いていた。
- ・鬼のパンツを踊る様子が可愛かった。自分も参加したかった(待機メンバーになった学生のコメント)。
- ・興味を持ってくれた。
- ・真剣に聞いてくれ、もう1度読んでとせがまれた。
- ・2回も熱心に見てくれた。

<今後気をつけること>

- ・もっと大きな声でわかりやすく読むこと。
- ・子どもの目線の高さに気を付けること。
- ・もっとゆっくり、絵を見せながら読むこと。
- ・鬼のパンツは節分に近いころに使用するのが良い。

5 まとめ

ステージ作りから後片付けまで20分で実施する計画を立てた。司会者、記録者、朗読、手遊び係、カメラ担当、など、それぞれが配置についてスタートした。学生たちは緊張気味であったが、優しい表情を子どもたちに向けていた。授業でのこの機会を通じて、日本の素晴らしい文化の1つである「絵本」とそこに使われている「日本のことば」の不思議な魅力を、学生たちに存分に味わってもらいたいと願っている。

(文責：短期大学 非常勤講師 兼光 英子)

●使用した絵本

